

早期栽培向け業務用米品種の選定

「ほしじるし」、「あきだわら」は、早期栽培向け業務用米品種として適する

背景・目的

- 外食や中食で使用される低価格帯の米である業務用米は、堅調な需要の一方で供給量が不足しています。
- 本県では、多収で実需者が求める食味や品質を満たした専用品種ではなく、高価格帯米での供給が主流となっており、需要と供給のミスマッチが発生しています。
- そこで、早期栽培地域を対象とした業務用米専用品種の選定について検討しました。

成果の内容

- 供試品種：とよめき、やまだわら、ほしじるし、あきだわら、笑みの絆、宮崎51号、夏の笑み(比較)
- 成熟期は、「やまだわら」がやや遅くなりましたが、他は「夏の笑み」と同程度でした。
- 収量は、「とよめき」、「やまだわら」、「ほしじるし」、「あきだわら」が「夏の笑み」を上回りました。
- 玄米の外観品質は、「ときめき」、「やまだわら」は「夏の笑み」に劣り、規格外となる年がありました。
- 食味はいずれの品種も「夏の笑み」と同程度でした。
- 以上のことから、本県の早期栽培向けでは「ほしじるし」、「あきだわら」が有望と考えられました。

表 業務用米品種比較試験結果

品種名	稈長 (cm)	成熟期 (月.日)	精玄米重 (kg/a)	農産物 検査等級	タンパク質 含有率(%)	食味 総合値※
とよめき	78	8.7	79.1	7.5	6.6	0.13
やまだわら	82	8.19	78.7	9.0	6.4	0.36
ほしじるし	68	8.7	74.7	6.8	6.4	0.18
あきだわら	74	8.8	69.1	5.8	7.3	-0.36
笑みの絆	75	8.6	64.9	2.2	7.3	-0.27
宮崎51号	72	7.31	63.7	4.3	7.7	0.07
夏の笑み	67	8.7	67.1	5.8	6.9	-0.07

※試験場内における食味官能試験の総合値

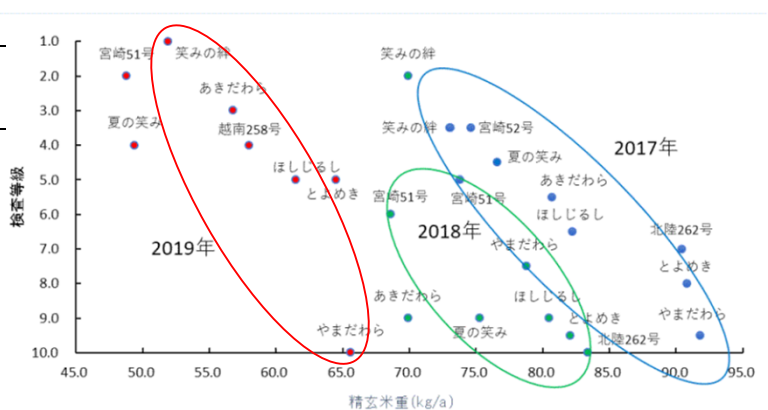


図 収量と品質の関係

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 本県早期栽培地域の、業務用米主力品種としての普及が期待されます。
- 普及対象地域 県内早期栽培地域

留意点

- 場内の試験結果では、いもち病の発生は「無」ですが、育成地(茨城県つくば市)では いもち病に強くないとの評価であるため、防除は主食用米品種の栽培指針に準じて実施します。



写真 登熟期の草姿(左あきだわら、右ほしじるし)